

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

グローバル化のリスクとこれからの対応 寺島 実郎 (日本総合研究所会長)

1. 恐怖が理性を上回ってパニック的状況になっているが、新型コロナショックの本質はまず「グローバル化のリスク」が露呈したということだ。人の「移動と交流」に伴ってウィルスも移動するのは当然であり、グローバル化を軸に経済活性化を図るならば、こうしたウィルスの感染が「常態」となるという覚悟を持って、パンデミック（世界的流行）にしないようリスクを制御していくことが重要だ。
2. 一方で、ポジティブな視点を持つ必要がある。まず言いたいのは、実体経済に対する視界を取り戻すこと。経済人が関心を持つべきなのは技術や産業であり、産業人として正気に戻ろうということだ。
3. 戦後の日本経済を支えた鉄鋼、エレクトロニクス、自動車といった基幹産業が根底から揺らぎ始めている中、産業構造自体を組み替えていかねばならない。パラダイム転換の中でどう自らの「旗」を立てていくか。そのための知恵と構想力が重要となっている。 (参考:「週刊東洋経済」2020年4月4日号)

経営者のための理念・哲学

人づくりは四育の立て直しから

福地 茂雄 (アサヒビール社友)

1. 昨年12月4日、日本の子供たちの「読解力」が急落していることが判明したのです。アジア諸国の学力が上昇する中で、我が国だけがランクダウンを喫しているこの状況に、私は強い危機感を抱きました。教育は、知育・徳育・体育・食育の四育から成り立つものであり、私たちはそれらを学校で、地域社会であるいは家庭で教えられ、学んできました。
2. まず知育です。かつて大学では4年間きっちり勉強できましたが、昨今は就職活動に多くの時間が費やされ、実際の教育は2・3年というのが実情です。次に徳育です。電車やバスの優先席で狸寝入りを決め込んでいる者、スマホに見入っている者などを見る時、昔からいわれている日本人の美德にむなしさを感じます。子供たちの健全な思考と健全な肉体を育むことは、日本の未来に向けた最重要課題です。 (参考:「致知」:2020年6月号)

人事・労務について

オフィスの分散が進む

1. 大企業を中心にかつてない規模で始まった在宅勤務。現在は外出自粛要請などを受け、「代替手段」として実施している会社も多い。だが長期化するに従い、自宅をメインの仕事場としながら、必要であれば最寄りのオフィスに出勤といった働き方ができる環境が整いつつある。オフィスの分散は、BCP（事業継続計画）として定着する可能性がある。
2. 大手企業の間でテレワークが定着し、オフィスの縮小に動き出せば、オフィス用不動産の需給はさらに緩み、空室が増え、賃料が下がる可能性がある。そして、広々としたオフィスが欲しいという企業の需要が戻ってくることはないだろう。人がいなくなるのは、オフィスだけではない。工場や店舗ではさらなる自動化に向けたロボット需要が急増するだろう。

(参考:「日経ビジネス」2020年4月13日号)

古典に学ぶ

元気とは至誠をもって養い継続すること

(解説) 元気というものは、孟子のいわゆる至大至剛^{しだいしごう}、いたって大きくいたって強いもの、しかして「直を以て養う」。道理正しきすなわち至誠をもって養って、それがいつまでも継続する。ただちよっと一時酒飲み元気で昨日あったけれども、今日は疲れてしまったという、そんな元気は駄目である。直しき^{ただ}をもって養ってうるどころがなれば、これこそ本統の元気であると思う。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)